

# 地質ニュース

昭和44年9月

第181号

1969

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 解説    | 那覇2号井自噴す……………第5次沖縄天然ガス調査講師団…1 |
|       | 北松型地すべり③……………北松型地すべりグループ…23   |
| トピックス | 電気検層の沿革……………武居由之…16           |
|       | 地球化学の話⑨……………倉沢一…30            |
|       | 水銀の話⑥……………岸本文男…38             |
|       | 月の地質学③……………小森長生…46            |
| 海外事情  | 1968年東欧夏の旅……………中村久由…55        |
|       | 学会掲示板……………22                  |
|       | 地学と切手……………堀内恵彦…37             |

## 編集 地質調査所

表紙の写真

発行 株式会社 実業公報社

### 大歩危峡谷

四国の高松から土讃線で南下して高知への途中 讃岐山脈をすぎ吉野川をさかのぼると 美しい翠の流れの両側にそそり立つ断崖絶壁の景勝がしばらく続く、これが大歩危 小歩危の峡谷である。夏は川岸にキャンプが群をなし 秋には紅葉でにぎわう。最近レジャーブームで観光客は倍増。水深10mを超えるところが2km以上も続くので 大歩危ではエンジンをつけた遊覧船が一年中絶景の谷間に客を案内する。前後にみられる白っぽい岩が大歩危層の砂質片岩で 東は長野県から西は九州までも続く三波川帯の変成岩の一部である。このなかに挟まれる礫岩のおしつぶされた礫状片岩は遊覧船の船着場でみられる。写真の砂質片岩は 平板状の単斜層をなし南(上流部)に傾いているが 下流部(船の進行方向)へゆくと 次第に緩やかな傾斜となり 大歩危と小歩危の中間位のところで水平となる。さらに下流部では 逆の方向(北)に傾くようになる。つまり背斜構造を示すわけで水平になったところに東西に走る「大歩危背斜」の軸がある。この部分は大歩危周辺の三波川帯を構成する地層の最下部大歩危層(石炭紀)のなかでも一番古い地層とされている。そのためこの地点は地球内部開発計画(UMP)での深層試験実施地点の候補地の1つにあげられ 地質調査所で地震探査などを行なったところである。

(文 猪木幸男 写真 正井義郎)